LivEQuality HUB サポーター募集中！

あなたの寄付が、ひとりで頑張る
シングルマザーとその子どもたちの
「再出発」を可能にします。



寄付控除対象

寄付金額から2,000円を引いた
最大50%が戻ってきます!

くわしくは

LivEQuality HUBは、名古屋市から認定を受けた認定NPO法人です。認定NPO法人へのご寄付は、税控除の対象となります。

1. 毎月の寄付で応援する

マンスリーサポーターとして継続的に決まった額を寄付いただく方法です。私たちと一緒にシングルマザー親子の成長と挑戦の日々を見守っていただけますよう、お願いいたします。

お申込みはこちら

コース変更のお手続きはこちら

毎月1,000円から応援いただけます



毎月3,000円の寄付で

母子1世帯が月1回の「生活相談面談」を受けることができます

日々の困りごとや生活の変化を聞き、状況に応じて必要な地域の機関を紹介することで親子の孤立を防ぎます。



毎月10,000円の寄付で

住まいを失った母子1世帯に「住まい」を提供することができます ※1年間支援を続けた場合

住まいを失った母子に、安全かつアクセスのよい住まいを紹介し、新しい生活のスタートをサポートします。

2. 自由な金額の寄付で応援する

クレジットカードまたは銀行振込

郵便振替

口座番号：00890-0-156117
口座名義：トクヒ）リブクオリティハブ

3. 日々の生活の中で応援する

Amazonほしい物リストからおすそわけ

居住者さんが今「これがなくて困る」ものをほしい物リストに掲載し、届けています。

インターン・ボランティア参加

毎年、活動を一緒につくってくださる学生インターンの方を募集しています♪

リブクオリティ・ハブ
認定NPO法人 LivEQuality HUB
〒461-0005 愛知県名古屋市東区東桜2丁目4-9 ナゴヤビル203
電話：050-1741-9674 / メール：info@livequality.co.jp

リブクオリティ　寄付

LivEQuality HUB



ひとり親だけど、「独り」じゃない。

ANNUAL REPORT 2025

社会が動き出した今こそ、つながりを大切に



いつもLivEQuality HUBを応援いただき、ありがとうございます。
早いもので、2022年1月設立の当団体も5年目を迎えました。コロナ禍で「自分にできることは何か…？」という問いから始まった活動を、仲間と皆さまに支えられ続けてこられたこと、とてもありがたく思っております。

この間、住まいの状況は厳しさを増しています。物価は上がる一方で所得は伸びず、安心して住む場所を持てない人が増えていることを、現場で感じています。そうした中、東京都が国内初の官民連携アフォーダブル住宅ファンドを立ち上げたことは大きな励みです。名古屋での私たちの実践がこの流れを動かす力になったと確信でき、心から誇りに思います。住まいの課題に社会が本気で向き合い始めている。その手応えを、いま強く感じています。

そのうえで、私たちが大切にしてきたのは住まいの「その先」です。良い住まいがあるだけではくらしの不安は消えません。そばに気にかけ、頼れる人がいる「つながり」があってこそ、お母さんたちは自分らしい歩みを取り戻します。

おかげさまで累計35世帯86名（2026年7月現在）へ住まいを届けてきました。安心できる住まいを得たお母さんが自分らしい人生を取り戻し、頼れる人や地域とのつながりを広げ、やがて自分の意思で次のくらしへ巣立っていく。お母さんが元気になると子どもも元気になる。その変化こそ私たちの誇りです。

「住まいのそばに、つながりを。」
これからもこの想いを胸に歩んでまいります。今後ともよろしくお願いいたします！

代表理事
岡本拓也

LivEQuality とは

Live：くらし　**Quality**：豊かさ　**Equality**：公平さ

「 住まいから、はじめる。」

VISION
安心安全な住まいを起点に、だれもが自分らしく生きられる社会

MISSION
住まいに困窮する人たちに、低価格で気持ちのよい住宅と社会とのつながりを届ける

HOW
株式会社とNPO、2つの法人を運営することで、社会性と経済性を両立するハイブリッドな経営モデルを選択しています。

住まいを届ける — LivEQuality 大家さん — 株式会社LivEQuality大家さん

つながりを届ける — LivEQuality HUB — 認定NPO法人LivEQuality HUB

私たちが向き合う「社会課題」

諸外国と比較しても深刻な日本の母子世帯の貧困



貧困率はOECD加盟国中 最下位レベル

OECD加盟国の
ひとり親世帯の相対的貧困率

1．フィンランド　10.2％
2．デンマーク　11.9％
3．スロベニア　16.3％
⋮
34．日本　44.5％

出典：OECD Income Distribution Database（閲覧日：2026年4月28日）

2世帯に1世帯のひとり親世帯が
相対的貧困状態

相対的貧困とは

同じ国・地域の人と比較して、大多数よりも貧しい状態のこと。等価可処分所得が中央値の半分を下回ると、相対的貧困であるとされる。

参考：厚生労働省 国民生活基礎調査（貧困率）よくあるご質問

ひとり親世帯の 約89％が母子世帯

母子世帯 119.5万世帯
父子世帯 14.9万世帯

出典：厚生労働省令和３年度全国ひとり親世帯等調査（2022）

住まいとつながりを失うことから始まる負のスパイラル

相談事例 1．外国籍のシングルマザー



夫からDVを受け、知人の1DKの部屋に避難。子どもは5歳と3歳。銀行口座は夫名義だったので貯金がない。夫にばれるため、住所が書けず、働く先も住まいも探せない。

相談事例 2．メンタル不調のあるお母さん



夫からのDVを理由に知人の家に避難後、離婚調停中。調停で夫との接触を繰り返すことによる精神的な不調があり、身近に頼れる人もいないため、働くことが難しい。

相談事例 3．未婚のシングルマザー



児童養護施設出身。親に頼れず、子をひとりで出産。子どもは1歳。ビジネスホテル暮らしのため働いても貯金ができず、仕事を辞めたら明日寝る場所がない。

※相談者のプライバシーと意思を尊重し、エピソードを一部改変しています。



私たちのアプローチとインパクト





※実績はいずれも2026年3月末時点

1. 求める親子につながる

住まいを失ったシングルマザーの相談を聞き、物件や支援機関を紹介することで、支援につなげます。

年間相談件数

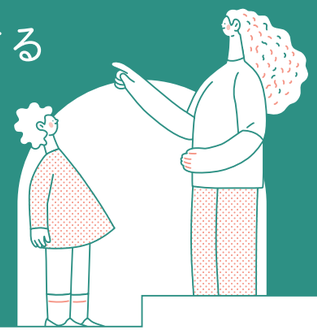
前年度比 −1%

197件

月間16.4件

2. まずは住まいを確保する

柔軟な契約条件、市場よりも安い家賃で、安心できるアクセスのよい住まいを提供します。



延べ受け入れ世帯数

33世帯

79人　前年度比 +22%

LivEQuality物件運用居室数

174部屋

3. 助け合いのつながりをたくさんつくる

多様な機関や人と連携することで、複雑な環境／制度のはざまに置かれた親子であってもサポートすることができます。

LivEQuality HUBがつながっている支援機関の数

222機関・人

前年度比 +46%

1世帯がつながった支援機関・人の数

入居時　平均 2.3機関・人

入居後　平均 14機関・人



LivEQualityのあゆみ

LivEQuality HUB

- 2020
  - 8月 コロナ禍を機に構想開始
- 2021
  - 1月 第1号物件を取得
  - 1月 NPO法人LivEQuality HUB設立
  - 6月 初めての入居者受け入れ
- 2022
  - 2-5月 クラウドファンディングを実施
  - 5月 保有物件50戸を超す
  - 3月 10世帯目の入居者受け入れ
  - 11月 株式会社LivEQuality大家さん設立
- 2023
  - 6月 第1回インパクトボンド発行
  - 7月 居住支援法人の指定を受ける
  - 11月 20世帯目の入居者受け入れ
  - 12月 認定NPO法人取得
- 2024
  - 3月 保有物件100戸を超す
  - 7月 25世帯目の入居者受け入れ
  - 9月 ICCサミットKYOTO2024「ソーシャルグッド・カタパルト」優勝
- 2025
  - 9月 りそな不動産投資顧問とアフォーダブルハウジング分野におけるひとり親支援型インパクトファンド組成
  - 11月 東京都「官民連携アフォーダブル住宅供給促進ファンド」運営事業者候補に選定
  - 12月 第4回インパクトボンド発行
- 2026
  - 1月 30世帯目の入居者受け入れ
  - 2月 東京都より40億円の出資が決定 SIIFよりトラッキングストックによる資金調達を実施
  - 3月 ICCサミットFUKUOKA2026「カタパルト・グランプリ」入賞

LivEQuality 大家さん

LivEQualityのメンバー



代表理事
岡本 拓也



副代表理事
宮崎 真理子



理事
岡本 敬史
(株)streams
代表取締役



理事
髙山 信雄
賢隆山久遠寺
住職



理事
福島 保
元(株)ベネッセホールディングス
代表取締役社長



理事
藤原 士朗
(株)ソニックガーデン
代表取締役副社長



理事
山田 大記
NPO法人
ReFrame副代表
浜松こども
基金代表



監事
菱山 園子
菱山園子
公認会計士
事務所



法律顧問
亀石 倫子
法律事務所
エクラうめだ代表

News! LivEQualityグループ、官民連携ファンドを組成

LivEQuality大家さん・LivEQuality HUBで構成されるLivEQualityグループは、りそな銀行と連携して設立したひとり親支援型インパクトファンドの組成を皮切りに、東京都の官民連携アフォーダブル住宅供給促進ファンドに採択されました。都市部を中心に物価高・住宅価格高騰が社会問題化する中、私たちがこれまで取り組んできたノウハウを活かして社会課題解決を進めていきます。LivEQuality大家さんに関する最新情報はウェブサイトをご確認ください。

LivEQuality 大家さんの 最新情報はこちら

お母さんの“頼れる応援者”として



LivEQuality HUBの 伴走型支援

ひとりで抱えないために 住まいの相談対応

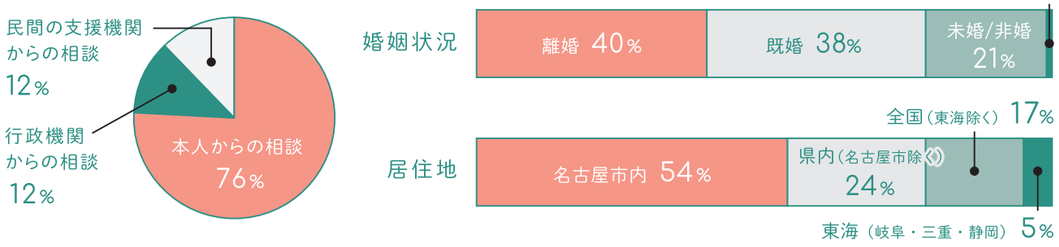
住まいの相談は、家だけの話では終わりません。離婚やDV、仕事やお金、子どものこと。いくつもの事情が重なり、くらしが行き詰まっていることがあります。相談では、その「最初の声」を受け止めます。

年間相談件数

197件（前年度比-1%）

相談者の属性

※「不明」を除く
（数値は全て2025年4月～2026年3月実績）



相談事例 Case 1 緊急避難 × 弁護士未確定

相談内容

DVにより遠方から避難し、シェルターに滞在中。追跡を避けるためスマホや連絡手段を変えざるを得なかった。加えて、離婚に向けた弁護士選任が進まないと、追跡のリスク回避を考慮した上での住まい探しができない状況。

Support

まずは「安全が確保できていること」を確認した上で、弁護士選定のために公的相談窓口や参考記事、弁護士の候補を複数提示し、法的支援につないだ。

Case 2 外国籍 × DV × 子ども複数 × 学区

相談内容

行政の女性相談員経由での相談。DV避難が必要だが、子どもの状況（通学・特性）から「今の生活圏を大きく変えたくない／学区を動かしたくない」という希望が強い。

Support

他の居住支援法人と連携して物件の選択肢を広げる前提で、利用できる制度・相談先を整理し、ご本人の意向確認後に支援先へ接続。必要に応じて連携不動産会社での探索も視野に入れた。

相談者の方からの声

本当に心強く、本来の自分を取り戻せました。
また必要になりましたら、頼らせてください。



立地もよく、サポートも素晴らしく…
精神的に弱っていたのですが、本当に
元気をいただくことができました。

入居された方だけでなく、入居に至らなかった方からも、「話を聞いてもらえた」「情報を知れただけで心強い」といった声をいただいています。連絡終了後、LivEQuality HUB主催のイベントにご参加くださり「相談によって活路が見出せた」とご報告くださった方もいらっしゃいました。

住まい相談の特徴 1

適切な相談先につなぐ

LivEQuality HUBは「つなぐ」プロフェッショナル。相談くださった方の希望がLivEQuality物件※とマッチしなかった場合でも、その方が適切な相談先につながれるようにしています。

※LivEQuality物件…株式会社LivEQuality大家さんが所有・管理する物件のこと。詳細はP9で解説しています。

相談先につないだ数 70件 ※複数該当ケース含む

支援内容	件数	傾向・具体例
行政機関を紹介	18	DV相談窓口（女性相談）、母子生活支援施設、生活福祉課など
他の居住支援法人を紹介	37	エリア外・対象外の方
不動産会社を紹介	20	学区外希望・一般賃貸でもOKな方
民間支援団体（居住支援以外）を紹介	7	DV・就労・生活困窮など複合的な課題を持つ方
問い合わせ団体/行政/弁護士等が対応	3	連携先の機関が主体となって対応

住まい相談の特徴 2

つながりつづける

初回の相談で入居につながらなかった方にも「また相談していい」と思っていただけるように、公式LINEでつながり続けます。あるお母さんは、初回は条件が合わず入居に至りませんでしたが、約1年後に再度ご連絡くださいました。状況の変化に合わせて面談を行い、必要な支援先とも連携を重ねた結果、LivEQuality物件への入居につながりました。

深刻になる前に、つながる アウトリーチ活動

住まいの悩みの前に、心や体、仕事や手続きの不安が積み重なることがあります。そんなお母さんたちに「相談していいんだ」と思っていただけるように、発信や場づくりを行っています。

つながる！ティータイム開催

お母さんたちが「ひとりで抱え込まずに、安心して話せる場」として、2023年から開催しています。



参加者の方々とお話しするキャリアコンサルタント・柴田朋子さん

2025年度開催回

- 2025/9/5「離婚や別居の“はじめの一歩”を考える」／森上 未紗先生（弁護士法人エミリア 代表弁護士）
- 2025/11/26「生活再建と働き方を考える」／柴田 朋子さん（キャリアコンサルタント・JUNO代表）

開催レポートはこちら

参加者の方の声

離婚に向けて歩き出すために
必要な法的知識がわかった

頑張っているシングルマザーが
沢山みえるんだと思い、
とても励まされました



公式LINEでの発信

住まいに限らず就労、メンタルサポートなど幅広いひとり親向けの情報を発信しています。



公式LINE友だち登録数 1,272人（2026年3月時点累計）

お母さんの“頼れる応援者”として
LivEQuality HUBの
伴走型支援



すでにある他の支援機関や住まいの形では対応が難しいご家庭を中心に、入居者を受け入れています。2025年度は新たに6世帯を迎えました。どのご家庭も、多様な支援機関との連携が必要な、複雑なケースです。
様々な資源をコーディネートしながら慎重かつ迅速に受け入れの準備、支援計画の策定を行い、安心できる住まいを確保していきました。

つながりのあるくらしを届ける
入居者の受け入れ

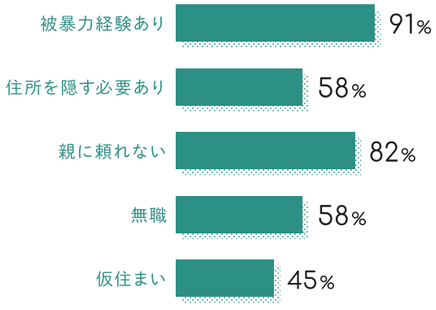
LivEQuality物件への累計受け入れ世帯数

33世帯79人

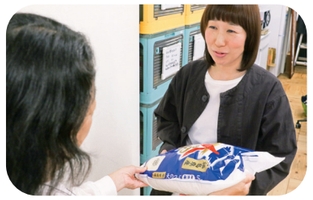
※2026年3月末時点



入居時の状況・属性（33世帯）



伴走型支援で行っていること



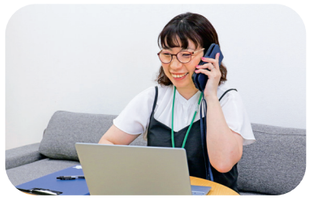
生活支援

- 食糧・日用品提供 … 情報提供、支援団体への連携等
- 行政手続き・社会資源の利用支援 …
  情報提供、書類作成支援、同行支援等
- 関係機関との連絡調整 …
  福祉事務所、児童相談所、弁護士、学校、支援団体等



健康管理支援

- 受診支援 … 情報提供、受診同行等
- 関係機関との連絡調整 … 医療機関、精神保健福祉センター、カウンセラー等





就労支援

- 求職活動支援 …
  情報提供、PC貸与、同行支援等
- 関係機関との連絡調整 …
  ハローワーク、就労移行支援所等



支援計画の策定・更新

- 支援状況の確認と支援内容の振り返り

「LivEQuality物件」とは？

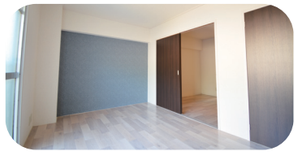
株式会社LivEQuality大家さんが所有・管理する、名古屋のシングルマザー応援住宅です。入居者さんからは「快適に暮らせる」と好評いただいています。

物件運用居室数 **174部屋**

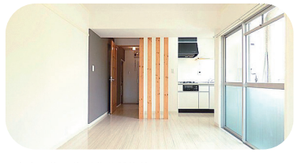
LivEQuality 物件の特長

1. アクセスの良さ
2. 無理のない家賃
3. 初期費用の軽減
4. 居住支援コーディネーターによる伴走









※室内画像は住所非公開物件

人と人、制度とくらしをつなぎ直す
多様な機関との連携

制度はあっても、くらしの中で使いこなすのは簡単ではありません。必要な支援が「点」で終わらないように、人と人、制度とくらしをつなぎ直していきます。

医療機関 心と体の安心につながる



ココカラウィメンズクリニック院長
伊藤 加奈子 先生

自分の不調を後回しにしがちなお母さんをサポートするため、ココカラウィメンズクリニック（婦人科）、ココカラハートクリニック（心療内科）と連携。予約・受診同行・託児等で「通える状態」を整え、心身の安定と生活再建を支えています。

社会福祉協議会 地域の手を、くらしのそばに

社会福祉法人名古屋市東区社会福祉協議会の第5次地域福祉活動計画の中で立ち上がった「ちょこっとボランティア」の取組では、子育て世帯の困りごとを地域のボランティアとマッチング。子ども食堂や区役所への付き添いなどを通じて、母子を支える輪が広がり深まっています。



ボランティア交流会の様子

弁護士 法的手続きを、ひとりで抱えない

DV・離婚調停・親権・面会交流などの法的課題は、生活再建を大きく左右します。弁護士と連携し、状況整理や安全確保、必要書類の準備を伴走。ひとりで抱え込まず、手続きを前に進められるよう支えています。



岡村 晴美弁護士からのコメント （弁護士法人 名古屋南部法律事務所）

DVやモラハラの被害から逃げてきても、実家に理解がなかったり、母子施設に合わなかったりと、心細い気持ちを持つひとり親にとって、住居は、安心して子育てするために不可欠な基盤です。LivEQuality HUBさんは、住居という概念をさらにひろげ、行政・医療・司法・就労など関係機関との橋渡しや相談事業など、安心して生活する環境ごと提供し、当事者の自立への伴走をしてくれていると感じています。私もともに走って行きたいと思います！

安心して相談できるから、前向きに未来を歩んでいける

2025年10月、LivEQuality HUBの活動報告会にゲストとして登壇してくださった、ビートルさん。登壇を決めた理由は「入居当初から、“支えてくださった方にお礼を伝えたい”という思いがあったから」と言います。居住支援コーディネーター・神（じん）とのインタビューを元に、ビートルさんの入居時の状況や、その後の変化、地域との関わりについてご紹介します。



相談からこれまでの歩み

つながった経緯

2024年、当時住んでいた家が突然、取り壊されることになり、2ヶ月で退去するよう大家から通知を受けた。短期間での転居が必要な中、行政の窓口から紹介された支援機関の公式LINEを通じて、LivEQuality HUBのことを知った。

1. 住まいの不安

不安いっぱいの環境 → 安心できる居場所へ

Before

急遽、家の取り壊しが決まり、大家から2か月後の退去通告を受ける。相談相手も少なく、住まいの不安に直面。

HUBのサポート

お問い合わせ受付後、迅速に面談して困りごとを一緒に整理したのち、住まいをご紹介。連携団体や寄付等を通じて必要な家具家電を手配し、「まずは安心安全な住まいへ」とサポート。

After

南向きで明るく、母子が快適に暮らせる間取りの部屋を確保。HUBのサポート内容を聞き、相談できる相手が見つかり安心。

2. 心の変化

一人で抱える → 自分のことも大切にできる状態へ

Before

誰かに弱音を吐くことはせず、「子どもがいるから頑張れる」と、自身でモチベーションを上げて頑張る日々。

HUBのサポート

一人で抱え込んでいることを察知し、外部専門家へ接続。アートセラピー・箱庭療法、キャリアコンサルタントによるキャリアデザイン支援で、住まいに加え“心の余裕”と“これからの人生”を描く。

After

接続先の専門家たちの支援を通じて、初めて「つらいこと」「疑問に思うこと」を話せる相手ができた。

3. 子どもの成長

ひとりで過ごす放課後 → 出会いから夢が広がる時間へ

Before

フルタイム勤務のため放課後は子どもだけのお留守番時間が長く、地域との接点も少ない状態。

HUBのサポート

地域の学習支援団体へ接続し、大学生スタッフや地域の大人と関わる場を創出。

After

新たな出会いから、子どもは「将来は先生になりたい」と夢を持つように。





エコバッグを
＼ 受け取った方からの声 ／

子どもが一生懸命に取り組んでいるサッカー教室で使う大事なサッカーボールを入れて使っています！サッカーボールのサイズにぴったりで！とても重宝しています✨

4. そして、地域を支える側へ -支援の循環-

していただいたことを返していきたい

神：最近は、ビートルさんが誰かの相談を聞いていることも増えてきているのが印象的です。この間も、LivEQuality HUB主催の「流しそうめん大会」で手伝っていただきました。ボランティアや、誰かを支えることについては、どう捉えていらっしゃいますか。

ビートルさん：今は本当に落ち着いてきて、心のゆとりもできてきました。その時に「していただいたことを返していきたいな」と単純に思いました。あとはイベントに行くと、小さい子を見るのがすごくかわいいです。自分もちっちゃい子を見ていて癒されるし、お母さんにも「イベントに来てよかった」と思ってもらえるなら、すごく嬉しいなという気持ちで、お手伝いをさせていただいています。

居住支援コーディネーターの存在について

神：最後に、私たち居住支援コーディネーターは、ビートルさんにとってどんな存在ですか。

ビートルさん：安心して相談できる存在です。そして、安心できるだけではなくて、前向きに未来を歩んで行かせてくれる。悩み相談って、その時の開放や愚痴だけで終わってしまうところがある中で、そうではなくて、前を向いていけるような助言をいただけるのがLivEQuality HUBスタッフの皆さんかなっていう風に感じてます。

連携のコミュニティづくり



居住者交流会の開催

知り合いのいない地域に引っ越してきたお母さんや子どもたちが、安心できるつながりを持てるように。
また、さまざまな制約の中にある親子にも体験の機会を届けられるように。そんな思いから、親子向けイベントを開催しています。

こども
えんにち

報告記事



フィンランド発祥のスポーツ「モルック」で出店くださった
社会福祉法人名古屋市中区社会福祉協議会の皆さん

緑豊かなお寺・久遠寺（くおんじ）をお借りして、2022年から毎年開催。
助成金に頼らない初めての自主開催となった2025年度も、
ご寄付のおかげで無事、開催することができました。雨で縮小
開催となったものの安全を最優先に実施し、44世帯・105名の
親子が参加されました。





参加者の方
からの声

楽しいし、元気をもらえます。
来年も開催されることを
願っています。
ありがとうございました😊

こどもがこどもえんにちの日を
毎日とても楽しみにしていました。
こどもにとっては夢のような
おまつりだと実感しています。

流しそうめん
大会

報告記事



クリスマス
親子遠足

報告記事



コレクティブインパクト勉強会の開催

活動に関わる皆さんと一緒に連携について考える勉強会。4年間継続して開催し、
2025年度は延べ55名の方にご参加いただきました。新たな「つながり」や「やりたい」が生まれるはじまりの場所です。



元J1キャプテンの挑戦――サッカーと子ども支援をつなぐ未来

Date 2025.4.11

山田大記さん
（NPO法人ReFrame副代表・
浜松こども基金代表）



「変えられないを、変える」公共訴訟で未来をつくる

Date 2025.6.12

亀石倫子さん
（法律事務所エクラうめだ代表弁護士・
一般社団法人LEDGE代表理事）



どう生きるか、どう働くか
～リジェネラティブ（共繁栄）という選択～

Date 2025.7.17

濱川知宏さん
（一般社団法人Earth Company
共同創設者・最高探究責任者）



インタビュー
＼全文はこちら／

デロイト トーマツ グループ
浜野 香織さん

LivEQuality HUB 代表
岡本 拓也

「社会構造」そのものを変革する挑戦に共感――

デロイト トーマツ グループ × LivEQuality HUB対談

2023年度より、継続的にご支援くださっているデロイト　トーマツ　グループ。寄付月間キャンペーンや、母子向けイベントでのボランティアなど、幅広い形でメンバーの方々にもご参画いただいています。今回の対談では、支援に込めた想いと、住まいの課題を「社会構造」から捉える視点を伺いました。

「住まい」への視点の新鮮さと共感

岡本：まず、LivEQuality HUBを知っていただいたきっかけから伺ってもいいですか？

浜野さん：はい。私は「Personal Well-being チーム」に所属しています。LivEQuality HUBのことは、チームが立ち上がった頃に社内のつながりで知りました。

岡本：数ある支援先の中で、特に関心を持ってくださった理由はどこでしたか？

浜野さん：母子家庭支援の中でも「住まい」に焦点を当てている点が新鮮でした。母子家庭がワンオペで頑張る、という個人の努力だけではなく、そもそも社会の構造として問題があるという切り口で活動されていることに共感しています。

関わるほど見えてきた、“制度の穴”をつなぐ価値

岡本：継続して支援しようと思った背景を教えていただけますか？

浜野さん：やはり、個人の努力だけではどうにもならないところで、制度や仕組みの間に“すぽっと穴が空いてしまう”瞬間があると思っていて。そこをちゃんとつないでいくことに、ことのほか価値を感じました。

岡本：地域のつなげる「ハブ」になり、伴走するという部分を大切にしているので、そうおっしゃっていただけて嬉しいです。

関わりを通して、裾野を広げていく

岡本：関わっていただく中で、印象に残ったことはありますか？

浜野さん：寄付月間キャンペーンでご一緒させていただいた際、岡本さんの熱い想いに心を打たれました。「こどもえんにち」に参加したメンバーからも「子どもたちの喜ぶ顔が見られて嬉しかった」と聞いていて、このご縁をつくってよかったと感じています。

岡本：デロイト トーマツさんは毎年ボランティアに来てくださって、2025年はお揃いのTシャツで参加いただいたのも印象的でした。LivEQuality HUBとの関わりについて、社内の反応はいかがでしたか？

浜野さん：普段一緒に仕事をしている人が寄付月間キャンペーンなどを通じて支援をしていると知ることで、団体や社会課題に関心を持つ人が増えました。最終的には、キャンペーンがなくても寄付につながっていく、というところが目標です。

岡本：最後に、LivEQuality HUBへの期待をお願いします。

浜野さん：東京都の取組をきっかけに、全国に同じような仕組みが広がっていくといいなと思っています。これからも前に進んでほしいです。



2025年度
こどもえんにちに
参加くださった
デロイト トーマツ
グループの皆さん

支えてくださった企業・　団体の皆さん（一部のご紹介）









ご助成いただいた機関・団体



- 社会福祉法人中央共同募金会　赤い羽根福祉基金
- 社会福祉法人名古屋市社会福祉協議会　地域の困りごと解決応援助成
- 日本労働組合総連合会　2025年度「連合・愛のカンパ」地域助成
- 公益財団法人日本フィランソロピック財団　第3回「子どもぬくもり基金」助成
- パブリックリソース財団　寄付適格認証団体データベース セレクト型基金
- 独立行政法人福祉医療機構　令和6年度 社会福祉振興助成事業
- 独立行政法人福祉医療機構「こどもの未来応援基金」令和7年度未来応援ネットワーク事業
- 公益財団法人みらいRITA YUIみらいプロジェクト「ジェンダー視点のあるソーシャルインパクト助成」

会計報告

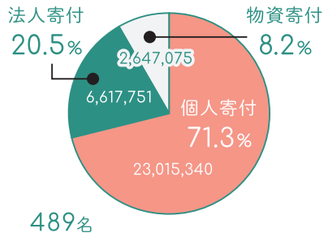
2025年度活動計算書

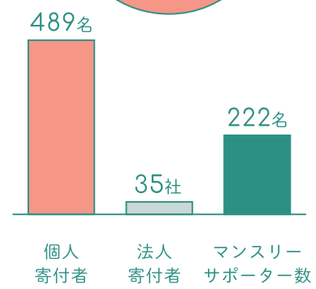
科目	金額（円）
Ⅰ. 経常収益	
1. 受取寄付金	32,280,166
2. 受取助成金等	51,829,836
3. その他収益	2,123,945
経常収益計	86,233,947
Ⅱ. 経常費用	
1. 事業費	59,203,241
2. 管理費	550,813
経常費用計	59,754,054
法人税、住民税及び事業税	13,245
当期一般正味財産増減額	26,466,648
当期指定正味財産増減額	28,598,750

2025年度貸借対照表

科目	金額（円）
Ⅰ. 資産の部	
1. 流動資産	94,666,019
2. 固定資産	370,034
資産合計	95,036,053
Ⅱ. 負債の部	
1. 流動負債	4,281,943
2. 固定負債	0
負債合計	4,281,943
Ⅲ. 正味財産の部	
指定正味財産	28,598,750
一般正味財産	62,155,360
正味財産合計	90,754,110
負債及び正味財産合計	95,036,053

ご寄付の内訳





メディア掲載実績

テレビ・新聞

NHK「クローズアップ現代」／NHK「おはよう日本」
東海テレビ「ニュースONE」／
朝日新聞 ／日本経済新聞 ／ 中日新聞愛知版

Webメディア

RICE MEDIA

雑誌・会報

Forbes JAPAN ／ AERA ／月刊次世代経営者 ／
中日新聞 機関誌「Risa」 ／
名古屋NGOセンター会報「さんぐりあ」 ／
一般社団法人高齢者住宅財団「財団ニュース」 ／
情報マガジン「きらきら☆」





物品のご寄付等でのご支援（一部のご紹介）







- 法律事務所エクラうめだ
- 認定NPO法人おてらおやつクラブ
- 株式会社オープンハウス 名古屋支社
- 株式会社Good Service
- 株式会社グローバル・スタッフ
- ココカラウィメンズクリニック
- ココカラハートクリニック
- こどもサポート証券ネット（日本証券業協会）
- 一般社団法人世界アーチング協会
- 認定NPO法人チャリティーサンタ
- 認定NPO法人中部リサイクル運動市民の会
- 寺子屋楠
- ブラザー販売株式会社
- 株式会社ヘラルボニー



